

かわきた 支部ニュース

臨時号 平成30年11月7日発行
 〔編集者〕 細 田 義 之
 〔発行者〕 西 村 文 成
 〔発行所〕 (公社)神奈川労働安全衛生協会川崎北支部

第77回

『全国産業安全衛生大会2018 in 横浜』開催される

平成30年10月17日（水）から19日（金）までの3日間、「全国産業安全衛生大会」が横浜市内で開催されました。

本大会は、戦前の昭和7年から中央労働災害防止協会の主催で開催されている国内最大の安全衛生のイベントで、毎年全国各地の都市を舞台にして執り行われます。一昨年の宮城県仙台市、昨年の兵庫県神戸市に続き、今年は25年ぶりに我々の支部がある神奈川県での開催となりました。

今年は「安全・健康の決意新たに トップの率先 現場の改善」をテーマに、新横浜の横浜アリーナでの総合集会后、横浜駅前エリア、みなとみらい・桜木町エリア、関内エリア、中華街エリアに点在する10会場で約270もの講演や事例報告、パネルディスカッション等が盛大に行われました。全国の事業場から約11,200名もの関係者が横浜に集い、大会期間中は街中の随所で大会特製の手提げ袋を持った参加者を目にすることで、大会の熱気を大いに感じることができました。

この全国規模の大会において、川崎北支部からは4事業場が分科会で発表を行いました。総合集会の概要も含めて、大盛況であった分科会での発表の模様をご報告します。

第77回

全国産業安全衛生大会

プログラム

2018
in
横浜
YOKOHAMA

安全・健康の決意新たに
トップの率先
現場の改善

開催期間 平成30年 **10月17日(水) → 10月19日(金)**

10/18 特別セッション
(横浜ベイクォーターホテル&タワー)
製造業安全対策官民協議会

会場 **総合集会 10月17日** / **分科会 10月18日、19日**
横浜アリーナ

バスフィコ横浜ほか横浜市内各会場

緑十字展2018 ~働く人の安心づくりフェアin横浜~ 10月17日(水) → 19日(金) バスフィコ横浜 入場無料

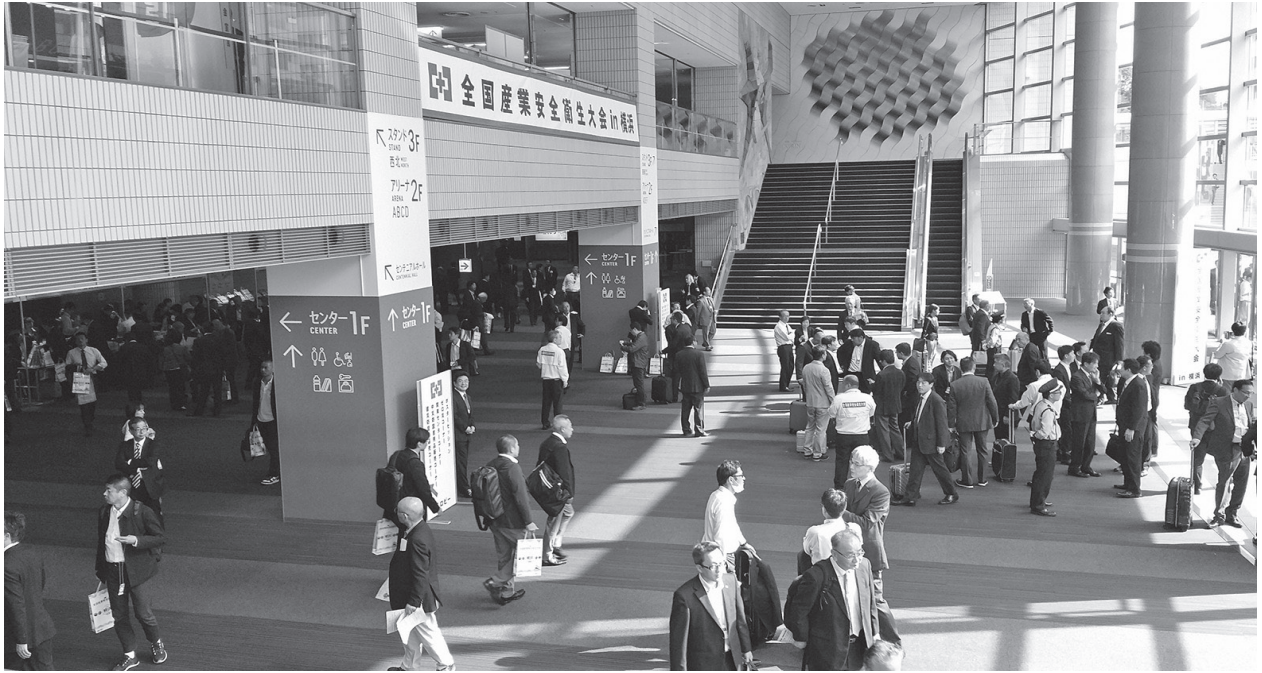
主催：中央労働災害防止協会 協力：公益社団法人神奈川労働安全衛生協会
 協賛：建設業労働災害防止協会、海上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会
 後援：厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省、スポーツ庁、警察庁、ILO駐日事務所、神奈川県、横浜市
 一般社団法人日本経済団体連合会、日本商工会議所、全国中小企業団体中央会、日本労働組合総連合会
 一般社団法人神奈川県経営者協会、横浜商工会議所、一般社団法人神奈川県職工会連合会、神奈川県商工会連合会
 神奈川県中小企業団体中央会、一般財団法人地方公務員安全衛生推進協会、公益社団法人日本保安用品協会
 日本労働組合総連合会神奈川連合会、公益社団法人神奈川県医師会、神奈川県社会保険労務士会、NHK横浜放送局

全ての働く人々に安全・健康を ~ Safe Work, Safe Life ~

JISHA 中災防

お問合せ先 中央労働災害防止協会 教育推進部 イベント事業課
 TEL: 03-3452-6402 <http://www.jisha.or.jp/>

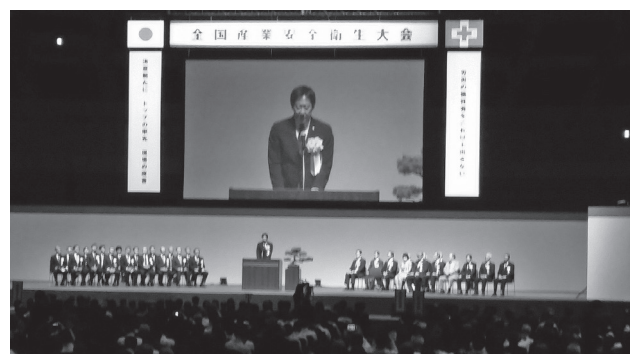
総合集会（平成30年10月17日（水））



大会1日目は、横浜アリーナにおいて13時15分から17時まで総合集会が開催されました。

第1部では、開会式において中央労働災害防止協会の大野副会長より開会宣言が行われ、同協会の中西会長よりビデオメッセージによる式辞が述べられました。続いて、来賓の宮川厚生労働審議官による根本厚生労働大臣の祝辞の代読があり、鈴木スポーツ庁長官、黒岩神奈川県知事、林横浜市長の祝辞の後、神奈川労務安全衛生協会の湯村会長が挨拶をされました。その後、中央労働災害防止協会会長賞、顕功賞、緑

十字賞の表彰式に続いて、中央労働災害防止協会の賀須井副会長が大会宣言を読み上げました。



第2部では、厚生労働省労働基準局安全衛生部長の椎葉氏より「労働安全衛生行政の動向」と題した講演、続いて、東京大学名誉教授・学習院大学国際社会科学部教授・経済学博士で、第2次安倍内閣発足後の平成25年から現在まで経済財政諮問会議議員を務めている伊藤氏より「日本の未来－働き方改革、高齢化、技術革新」と題した特別講演が行われました。

大会宣言

本年七月に発生した豪雨、九月に発生した台風二十一号、北海道胆振東部地震をはじめ、本年中に発生した自然災害により、亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、被害にあわれた皆様、そのご家族の方々に、心よりお見舞い申し上げます。

我が国の労働災害は、死亡災害が三年連続で千人を下回ったものの、前年に比べ増加し、死傷者数は第三次産業をはじめ、増加傾向が続いている。

これらの背景には、労働人口の高齢化、技術革新、急速な世代交代の進行による現場力の低下、若年層の危険認識の希薄化、雇用形態の多様化などに伴い、安全衛生教育、リスクアセスメント、危険予知活動などの安全衛生活動が低下している面があると考えられる。このため、本年策定された第十三次労働災害防止計画に基づき、国、事業者、労働者等関係者による重点的な取組が進められている。また、この秋には、我が国で定着している安全衛生活動をベースとし、ISO 45001と一体で運用できる日本版マネジメント規格（JIS規格）が制定されるとともに、製造業では、官民が連携し業種の垣根を越え、主要な業界の経営層の参画の下、行政とともに設立された「製造業安全対策官民協議会」の活動が本格化し、その検討の成果が、本大会において報告されることとなっている。

一方、職場におけるメンタルヘルス不調や過重労働、化学物質を原因とする健康障害といった課題に対しては、働き方改革の総合的な推進とともに、ストレスチェック制度や化学物質のリスクアセスメントの確実な実施とその活用が重要であり、さらに、病気を治療しながら仕事をしている方の増加に伴う就労支援の充実も必要である。

第十三次労働災害防止計画の初年度に当たり、その目標を達成するためには、経営トップの率先のもと、安全と健康を守る現場での自主的な安全衛生活動を改善することが重要である。

二十五年ぶりに、この横浜の地で開催される本大会を契機に、労働災害による犠牲者をこれ以上出さないという決意を新たにし、すべての関係者が一丸となって、労働災害防止対策に取り組むことをここに誓う。

右、宣言する。

平成三十年十月十七日

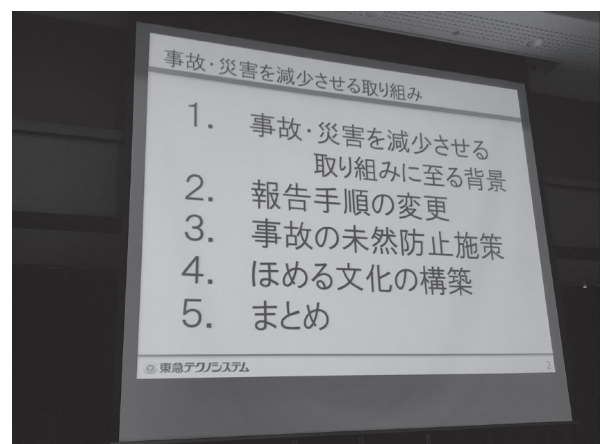
第七十七回全国産業安全衛生大会

10月18日（木）川崎北支部の会員事業場から 各分科会の発表がありました。

まず最初に、関内新井ホールでの安全管理活動分科会において「我が社の安全管理活動～事故・災害を減少させる取り組み～」と題し、東急テクノシステム株式会社安全品質委員会の原氏より発表いただきました。以前は事故の報告等の遅れから根本原因や再発防止策が有効でない事案が散見された対策として、事故が発生した場合の報告から是正までの手順を何度も改定しながら構築、またリスクアセスメントやヒヤリハット情報を収集することで、未然防止の取組みを行いました。



今後はリスクアセスメントのさらなる推進と、職場風土の改善につながる社員ミーティング等の施策に取り組み、事故・災害の削減を目指していきたいと締めくくられました。



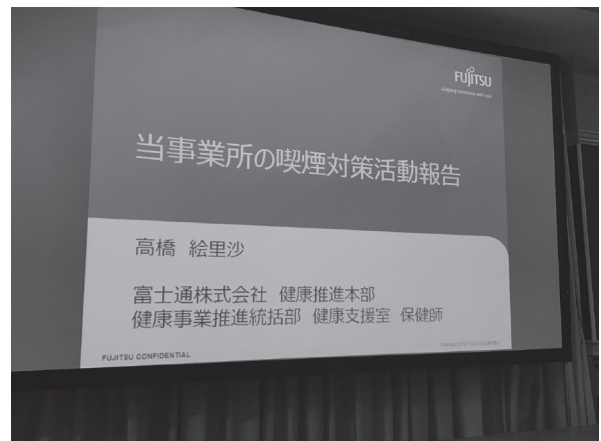
次に、横浜ベイシェラトンホテル&タワーズでのメンタルヘルス／健康づくり分科会において「外資系企業におけるストレスチェックの実施について」と題し、三菱ふそうトラック・バス株式会社人事本部HRマネージメントサービス部の道岡氏より発表いただきました。

2003年にドイツのダイムラー社の資本が入り役員のほとんどが外国籍の中でのストレスチェック実施にあたり、対象者の選定、紙やウェブなどの実施方法、使用言語など多くの課題を抱えながらも創意工夫で実施されました。



午後からは、ワークピア横浜での労働衛生管理活動分科会において「当事業所の喫煙対策活動報告」と題し、富士通株式会社川崎工場健康推進本部健康支援室で保健師の高橋氏より発表いただきました。

喫煙対策は1998年のオフィス内完全分煙に始まり、喫煙室の集約を経て2013年建屋内禁煙となっているが、喫煙率低下が停滞状況にあり、毎月22日の禁煙推奨デーや新たな取り組みを展開し活動強化を実施されました。



最後に、ホテルメルパルク横浜での中小事業場分科会において「わが社の安全衛生活動」と題し、日吉電装株式会社代表取締役社長の仁上氏より、最初から完璧は求めず、できることから即実行、目的・理由を明確に安全朝礼や安全注意事項でスピード重視の活動を発表いただきました。



各分科会とも多くの視聴者でいっぱいとなり、発表後には多くの質問が飛び交いとても有意義な場となったと思われます。この貴重な経験を機に、各事業場での更なる安全衛生の向上を期待いたします。来年は、京都府京都市において10月23日（水）から25日（金）まで3日間の開催が予定されています。

皆様、是非ともご参加をご検討ください。